

白糠町人口ビジョン 概要版

I はじめに

- 策定の目的 人口ビジョンは、白糠町の人口を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき人口の将来展望を提示するもの。
- 位置づけ 効果的な人口減少対策を立案する基礎資料
- 対象期間 2025年～2065年（40年）

II 人口の現状・分析

- 2020年の7,539人から2024年に7,003人、536人(7.1%)の減少。
- 年少人口は562人から505人で57人の減少、高齢人口は3,161人から3,059人で102人の減少となり、少子高齢化が進行している。
- 自然動態は、死亡数が出生数を上回り、自然減が続いている。
- 社会動態は、2023年に増加に転じるなど、社会動態の改善がみられる。

【総人口・3階層別人口】 (住民基本台帳)

	人口(人)				構成比率(%)		
	総人口	年少	生産年齢	高齢	年少	生産年齢	高齢
2020年	7,539	562	3,816	3,161	7.5	50.6	41.9
2024年	7,003	505	3,439	3,059	7.2	49.1	43.7
増減	▲536	▲57	▲377	▲102	▲0.3	▲1.5	1.8
増減率	▲7.1	▲10.1	▲9.9	▲3.2	▲4.0	▲3.0	4.3

参考 2015年と2019年との比較 (第1期創生総合戦略期間)

2015年	8,371	764	4,523	3,084	9.1	54.0	36.8
2019年	7,710	594	3,962	3,154	7.7	51.4	40.9
増減	▲661	▲170	▲561	70	▲1.4	▲2.6	4.1
増減率	▲7.9	▲22.3	▲12.4	2.3	▲15.3	▲4.8	11.1

【自然動態・社会動態】 (住民基本台帳)

	自然動態(人)			社会動態(人)		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
2020年	22	108	▲86	184	271	▲87
2023年	20	132	▲112	293	289	4
2024年	21	133	▲112	254	260	▲6

参考 2015年と2019年との比較 (第1期創生総合戦略期間)

2015年	32	145	▲113	213	370	▲157
2019年	30	142	▲112	235	334	▲99

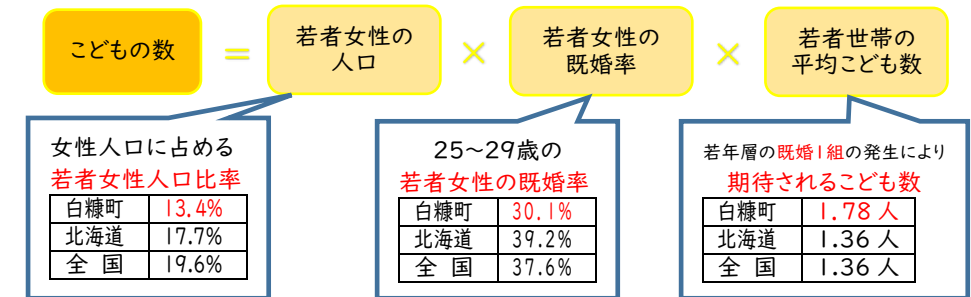
【合計特殊出生率の推移】

	2008～2012年	2013～2017年	2018～2022年	北海道	全国
合計特殊出生率	1.41	1.29	1.19	1.21	1.33

III 人口の将来展望

1 目指すべき将来の方向

- 自然動態 ・結婚・出産の希望を叶えるため、安定した雇用や収入の確保、地域資源をいかした産業振興を通じ、希望が叶う社会環境の整備
- 社会動態 ・都市部への転出超過の縮小のため、魅力ある地域の創出
- ・子育て支援や無償提供宅地等の施策を発信し、新たなひとの流れを創出



2 人口の将来展望

- 考え方 ・改定する人口ビジョンは、合計特殊出生率をこれまでの2040年に1.80、2060年に2.07という北海道準拠の算出を改め、2060年までに1.40まで改善すること、社会増減は2040年までに移動均衡することを想定する。
- 将来展望人口・2065年に3,217人で、社人研推計(1,534人)を長期的に上回る。

白糠町の将来人口 推計結果の比較

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
社人研推計(2023年)	7,289	6,402	5,553	4,769	4,047	3,413	2,841	2,341	1,904	1,534
人口ビジョン(現行)	7,627	7,254	6,870	6,503	6,157	5,855	5,612	5,423	5,284	
人口ビジョン(改訂版)	7,289	6,931	6,329	5,773	5,248	4,748	4,297	3,902	3,541	3,217

社人研推計(2023年)
国勢調査の実績値をもとに仮定を設け、人口規模、男女、年齢構成について推計を行ったもの。
現行人口ビジョン(2020年)可推計
社会移動均衡、合計特殊出生率が2040年に1.80(国民希望出生率)、2060年に2.07(人口置換水準)まで改善することを仮定したシミュレーション
人口ビジョン改訂版(2025年)可推計
合計特殊出生率が2060年に1.40まで改善することに加えて、2040年までに移動均衡することを仮定したシミュレーション

